

●南三陸町 地域資源プラットフォームの目指すもの

## 日本初、地域産業に密着した“課題解決機関”

「森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸町」の実現に向け、地域密着型研究で地域産業の課題を発見、解決手法を見つけ実行すること。さらに、地域の次世代を育成するためのプログラムの開発・提供を行い、自然の恵みと人と経済の循環する新しいまちづくり、人づくりへと貢献する。

### ◇研究を活用した地域産業ブランド化事業

※2020年以降は木質バイオマス等、森・里等の海以外の領域の事業化も検討していく。

#### 地域産品（ASC 養殖カキ）のブランド化 <2018年度～2019年度事業案>

目的：ASC カキのブランド化により卸値を2割向上（対・非認証カキ）させること

- ①大学との共同研究により他地域との環境、味等の違いを探し出す  
→カキの品種、栄養成分、生育環境、生育方法、etc.
- ②価値を伝える相手、コミュニケーション方法を確立する  
→誰が、どこで、何のために、どんなときに買うのか。  
→流通チャネルの選定と商談  
(成城石井、大地を守る会、外資系ホテル、海外富裕層、EC サイト)
- ③ブランド化を実現できる協力者とチームを組む  
(東北大学、JETRO、東の食の会、日本サステナブル・ラベル協会、結アソシエイト、ESCCA、など)

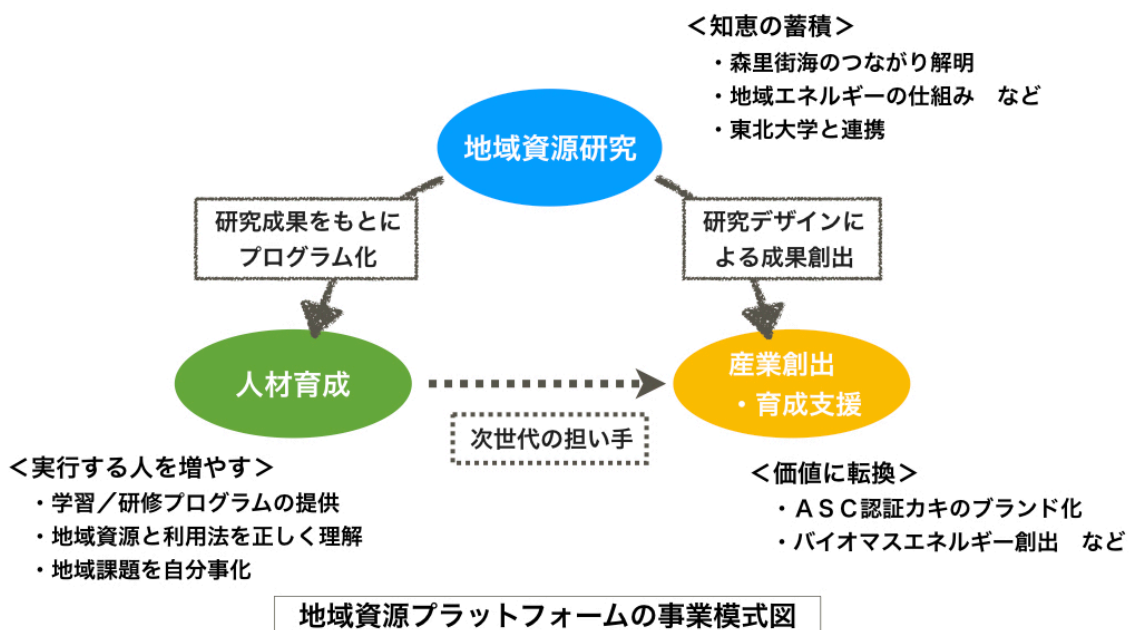
### ◇世界中から「いのちめぐるまち」を学びに来る人材育成の場

#### 世界中から学びに来るサステナビリティ教育先進地域をつくる

- ①誰が見ても聞いても分かりやすい、環境や自然、持続可能な地域社会に関する学びのプログラム開発と提供
- ②研究で判明した事実をベースにした良質な教材の開発  
森～海の資源循環が見える化し、自分ごととして学べる材料を提供する
- ③国際学会やカンファレンスの誘致  
日常的に多くの研究者が地域外から集まる流れを作る  
東北大学との南三陸モデル研究を、研究者来訪の呼び水とする

## ●協議の場

プラットフォーム活動の検討の場の一例として、いのちめぐるまちの担い手が気軽に相談ができる協議の場を設け、その場で議題に挙がる悩みやアイデアを元に、事業計画に盛り込んでいくことも検討する。



### ●地域資源プラットフォームの運営

地域資源プラットフォームは、行政の地域再生計画と連動した公益的な事業を行政と連携、協働しつつ、民間の企業等を顧客にした収益事業も行いながら、民間組織として機動的な経営で事業効果を生みだしていく。

### ●南三陸町が復旧するネイチャーセンターとの関係について

設立準備委員会で提示された町からの方針によれば、ネイチャーセンターを公設公営で復旧し、当面はラムサール条約湿地登録に向けた活動と磯焼け調査を実施する。

地域資源プラットフォームは、事業の推進に当たり必要に応じてネイチャーセンターと連携し、両者の将来的な統合については、事業の進捗をみながら今後検討していく。

